

3) 新しい園芸植物の開発・普及・展示に関する調査研究

徳原 憲¹・端山 武¹・具志堅江梨子¹・比嘉和美¹・具志堅雪美¹・佐藤裕之¹

キーワード：遺伝資源 花卉 育種 組織培養 産業振興

1. はじめに

沖縄県の在来植物の中には、花卉園芸植物として利用されていない未利用遺伝資源があり、育種等での利用が期待できる。

本研究では地域産業振興および沖縄県在来植物の価値創出を目的として、遺伝資源収集、育種、種苗増殖、展示利用等を行うものである。

2. リュウキュウベンケイ

リュウキュウベンケイ (*Kalanchoe spathulata* DC.) を新たな園芸品種の育種を行ってきている。新たに「ちゅららシュガー」、「ちゅららピーチ」、「ちゅららコーラル」、「ちゅららレッド」として4品種を品種登録出願した。



写真-1 新たに出願登録した「ちゅららシュガー」(上段左)、「ちゅららピーチ」(上段右)、「ちゅららコーラル」(下段左)、「ちゅららレッド」(下段右)

1) 新品種の開発

花卉培養により得られた「ちゅららピーチ」色素変異体3系統について、花色の安定性および形質を確認するため、挿し木増殖後に栽培試験を実施した。その結果、いずれの系統においても先祖返りは認められなかったが、葉の小型化および花数の減少といった形質変化が認められた。これらの形質は本品目の切り花としての価値を低下させるものであるため、営利品目としての利用価値は低いと判断し、品種登録は見送った。



写真-2 「ちゅららピーチ」の親系統(上段左)とその変異体(上段右)の花。ちゅららの親系統の葉(下段右)、変異体の葉(下段右)

2) 普及・利用

品種登録申請中の新品種を複数使い、海洋博公園熱帯ドリームセンターにおいて修景展示を実施した。当センターは2026年2月に開館40周年を迎えたことから、これを記念したフォトスポットを設置した。展示期間が約2か月間に及ぶため、花もちの良い花材の選定が必要となった。そこで、「ちゅらら」とコチョウランを花材として採用し、花であふれる空間演出を行った。その結果、展示期間中に花材の入替を行うことなく展示を維持するとともに、来館者から良好な評価を得た。

¹植物研究室



写真-3 熱帯ドリームセンター開館 40 周年に合わせた修景展示。ちゅらら新品種を手前に使用

3. ダイサギソウ

ダイサギソウはラン科植物で、沖縄県を含む温暖な地域に自生するラン科植物である。花茎は 30-70cm に達し、房状に多数の純白の花が付けることから、切り花の育種素材として利用できる可能性がある。しかし、自家受粉するため花持ちが悪い、花が小さい等の課題がある。また、本種は絶滅危惧種であり、代替品の作出と普及が本種の園芸目的の採集圧低減につながると期待された。そこで、産業振興と保全の両立を目的に育種に取り組んだ。

令和 7 年度は、弁質および開花期間の改善を目的として×*Pectabenaria* 'White Griffin' の戻し交配、および、花色の多様化を目的として *Habenaria rhodocheila* の黄色個体との交配を行い、実生を複数獲得した。さらに、新たな遺伝資源（×*Pectabenaria* 'Wow' s White Fairy' 等）の導入を行った。

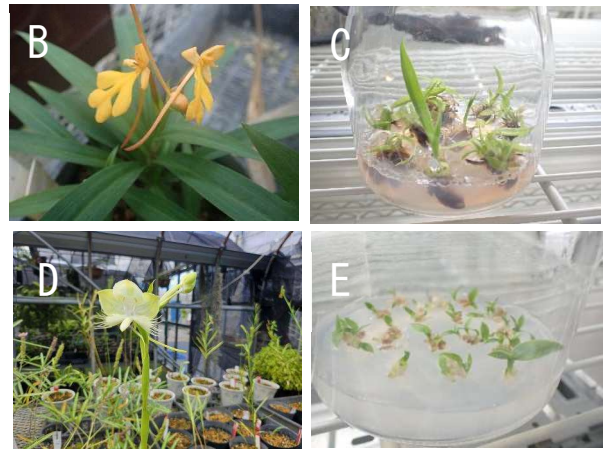


写真-4 沖縄県由来のダイサギソウを用いて開発された *Pectabenaria* 'White Griffin' (A)、*Habenaria rhodocheila* (B) とダイサギソウとの交配により得られた実生 (C)、ならびに *Pectabenaria* 'Wow' s White Fairy' (D) とダイサギソウとの交配により得られた実生 (E)

4. ジュエルオーキッド

ジュエルオーキッドは、*Anoectochilus*、*Goodyera*、*Macodes*、*Ludisia* 属など葉に独特の輝きを有する地生ランの総称であり、模様や色彩に富む特徴を有する。近年はテラリウム等インドアグリーンとして需要が拡大しており、野生採集に頼らない、人工増殖株の普及が求められている。

当研究室では、現在までに 20 系統の原種について培養増殖を試みており、令和 7 年度は 14 系統・520 苗を生産した。苗は熱帯ドリームセンターへ供給し、常設展示のほか、熱帯植物をテーマとした催事などで利用された。



写真-5 海洋博公園におけるジュエルオーキッドの展示

5. 外部評価委員会コメント

対象にしている品目については、いずれも順調な進展状況。育種は時間のかかる仕事であるが、目標と方向は明確に示されているので、近い将来の成果を楽しみに待ちたい。なお、沖縄には、まだ未利用の植物が沢山あると思うので、それらの積極的な開発を期待したい。

(三位顧問：千葉大学 名誉教授)

切り花の輸送傷みへの対策として、傷みを克服できる形質(花弁と茎が強い)を持つ品種育成を一步ずつ進めること、また沖縄独自のブランドを目指したちゅらら以外の品目についても沖縄固有種を用いながら進めて頂きたい。

ジュエルオーキッドをはじめ、ドリームセンター展示用に多くの苗を供給できたことは高く評価する。

ダイサギソウを用いた交雑後代について、今後の成果を期待している。

(上田顧問：ぎふワールド・ローズガーデン理事)